

博士課程教育リーディングプログラム現地視察報告書(平成26年度)

博士課程教育リーディングプログラム委員会

プログラム名称	エンパワーメント情報学プログラム	申請大学名	筑波大学
申請大学長名	永田 恭介		
プログラム責任者	大田 友一		
<p>1. 進捗状況概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「人の機能を補完し、人とともに協調し、人の機能を拡張する情報学」(エンパワーメント情報学)においてグローバルリーダーの人材育成をするという本プログラムは、全体を通して順調に進行しているものと判断される。 ・特別選抜により優秀な学生を選抜し、平成26年度は10名の学生を受け入れている。 ・更に、学生が寝食を共にしコラボレーションを促進する「エンパワー寮」も整備されているほか、学生が主体的に独創的な研究を実践できる研究環境としての「エンパワースタジオ」の用地の確保、基本設計も完了している。 ・本プログラムの特徴は芸術系、ビジネス科学系、情報系等多様な分野の学生に対する学際的な教育であることから、その学位の質保証が重要となるが、筑波大学では分野横断型学位プログラムの受け皿として「筑波大学グローバル教育院」を平成23年度に設置しており、既存の研究科の枠を超えた複合領域学位プログラムの運営体制を構築している。 ・以上のことから、本プログラムによる、実世界問題を解決する実践的かつ高度な技術者の養成に向けたユニークな取組が期待できる。 <p>2. 意見(改善を要する点、実施した助言等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本プログラムの特徴は、かなり文化が異なる分野の学生の学際的な情報学教育を目指しているところにあり、そのために、学術性、実践性両面からの指導体制を組んでいる。実践性の面ではより実践的な実習や演習を設けており、学術性の面では産業界、芸術、医学、ビジネス科学からのアドバイザーを含めた異分野複合研究指導体制をとっている。学術性を身につけさせるためには、研究分野が異なる教員の融合のもとでの研究指導が不可欠であり、それに向けたより一層の努力をして頂きたい。このことは同時に、学生の評価、学位の認定等にも繋がることである。 ・学位の審査方法について、5人の指導担当者がそのまま学位論文審査と最終達成度審査双方の評価者になるということには、少し不安を感じる。専門性を確保しつつ、分野横断のリーダーとしての資質も担保できるような評価体制を考えて欲しい。最近では、指導教員以外の方が主査となるという方法も広まってきており、そうした動向も考慮しつつ検討して欲しい。「筑波大学グローバル教育院」による学位プログラム制の成功を期待したい。 ・本プログラムが成功するか否かは、「エンパワースタジオ」を如何に効果的に利用できるかによるであろう。そのためには、本プログラムで教育を受ける学生と教員のコミュニケーションの場であるだけでなく、彼等の実験室についても「エンパワースタジオ」に設置し、そこが日常的な研究環境になるとともに、プログラム以外の学生も集まるといった魅力的なリサーチアトラクターになることが望ましい。 			